

## 八ヶ岳 横岳西壁中山尾根 報告書



【場所】長野県 八ヶ岳横岳 中山尾根

【日程】令和2年2月22日（前夜発）

【参加者】CL松原、尾崎（記録）

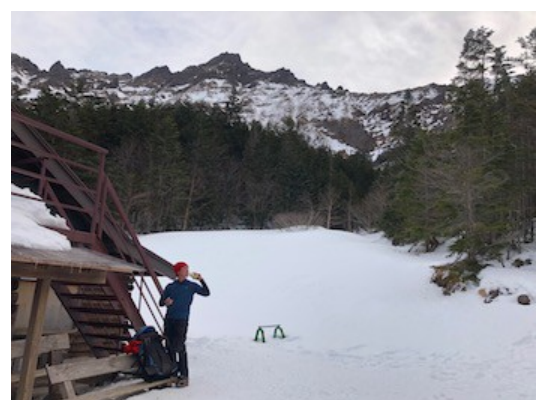
【行程】5:10 道の駅こぶちざわ ⇒ 6:30 美濃戸 ⇒ 8:10 行者小屋 ⇒ 9:30 1  
ピッチ目 ⇒ 13:15 最終8ピッチ目 ⇒ 16:20 地蔵尾根分岐 ⇒ 17:10 行者小屋  
⇒ 19:05 美濃戸 ⇒ 帰葉

最近の愛読書「チャレンジ！アルパインクライミング」を読みながら、冬季アルパインに思いを馳せていたら、Mさんから赤岳ショルダーリッジへお誘いを頂いた。出発日が2月22日と決まると気になるのは天気予報。しかし予報はあいにくの「雨」。日が過ぎても改善傾向にない。赤岳ショルダーリッジの取り付きまでは雪崩る可能性が高いため、天気が悪いと取り付くことができない。その為、取り付きの比較的容易な「中山尾根」へ変更。決行するか否か当日までMさんが検討してくれて、「現地に行ってみて、天気が悪ければ帰りましょう。」という条件で出発した。



【装備の確認と一杯】

前夜、道の駅こぶちざわで一杯、装備の確認。「手が冷えると辛いよ。」とスペアの手袋



【行者小屋から横岳】

を沢山お借りする。

5：10 出発。美濃戸口で車にチェーンを履かせ、四駆の軽トラックで山道を駆け抜け一気に美濃戸まで。美濃戸口から美濃戸まで車で移動できるのはとても楽チン！



### 【西側は快晴】

### 【ここから尾根に入る】

6：30、駐車場を出発。南沢経由で行者小屋に。そこで軽アイゼンから12本刃に履き替え、軽アイゼンはその場にデポ。気になる天気は、横岳方面は「薄い曇り」、阿弥陀岳方面は「快晴」。幸運にも天気予報は外れたのかなっとテンションが上がる。

行者小屋から赤岳鉱泉の方面へ歩いて10分、中山乗越で登山道から外れ右折し、中山尾根上から横岳方面へ向かう。樹林帯の中をしばらく登っている途中、阿弥陀岳方面はピーカンになり、今日のクライミングへますますテンションが上がる

樹林帯を抜けると、痩せたスノーリッジが現れ、それを超えると下部岩壁が眼前に。この時点から天気は下り坂になり、稜線上には突風がビュンビュンと吹き付けている。

行者小屋から小一時間、岩場に取り付く。取り付きでハーネスを着用するが、テラスがさほど広くなく、平坦ではなかったため立ちづらい。ハーネスは行者小屋で装着が良かったかもしれない。



## 【岩壁を登る】

### 【4ピッチ目 上部岩壁】

1ピッチ目（以下、P）…Mさんは慣れたように岩壁をスイスイとリードしていく。直ぐにコールが聞こえ、次は自分の番。初めてのアイゼン登攀（+手にはテムレス）。なんてことないピッチなはずだが、手こずる。アイゼン登攀に慣れるまで少し時間がかかったが、前爪の使い方を体で理解し、なんとか1Pを登りきる。

2P…ビレイ点から左に回り込み、岩壁をトラバースするように登って行く。1P目より然程悪くはない。

3P…岩混じりの雪稜をコンテで登る。コイルの作り方を事前に練習していたが、本番では上手にできず、Mさんにほとんどロープを持たせてしまう。練習不足を痛感する><



## 【リードありがとうございます】

### 【最終8P トラバースで抜けることも】

4P…雪稜を登りきると上部岩壁が現れる。4P目は4級+でこのルートのコートだったが、自分はフォローだったので、何の躊躇もなく登ることができた。

5P…簡単な雪稜だったので、リードさせてもらった。灌木にランナーを取りながら2～30mほど進むと、しっかりとしたボルトを見つけたので、そこで支点を取る。

6P～7P…ここから天気が崩れ吹雪き始め、急に寒くなる。残り後2Pだったため、最後の力を振り絞り一気に直上する。

8P…ここからはトラバースして登山道に出るか、もう1P登るか選べるのだが、まだ時間があったので最後の1Pを登ることになった。2mくらい登ったところがハングしている。Mさんはハーケンで支点構築した後、アックスを打ち込んだら良いホールドを見つけたようで、一気によじ登る。

次は僕の番だ。が、何度やっても登れず、Mさんが様子を見に来てくれる。アッセンダーを貸してくれたり、色々アドバイスをしてくれるが、どうしても登れなかったので、一旦降りて、岩壁をトラバースし、登山道へ出る。

その後、吹雪つける稜線上を歩き地蔵尾根まで歩く。視界不良、ルートファインディングが大変だったが、やっとこさお地蔵さんを見つけた時は安堵した。



#### 【吹雪く稜線上】

#### 【地蔵尾根分岐、寒かった】

地蔵尾根を下り始める。登山道のトレースは吹雪によって見えなくなっている。必死にルートを探しながら降りる。途中、梯子の下が完全に雪に埋もれ、道が途絶えてしまっている。降りられそうな尾根が複数ありどれが正規ルートか解らなかったが、スマホを覗くと電波が入っている。咄嗟にGPSを活用した。

その後は行者小屋で小休止した後、南沢へ出発。19:05、美濃戸到着、帰葉する。

今回は良いことも悪いことも沢山学び、自分の経験不足を改めて痛感させてくれた山登りでした。僕の力量では到底登れるルートではなかったので、ここまで引っ張り押し上げてくれたMさんに感謝です。ありがとうございました。次は足手まといにならないようにこれからも地道に練習を重ね、次来る時は自分の力で登られるようにしたいと心に誓った生涯思い出に残る山登りとなりました。

記録：尾崎